

ウイルス・幹細胞システム医生物学共同研究拠点

入場無料

定員500名
(先着順)

京都大学医生物学研究所

第19回 公開講演会

感じる私・考える私・変化する私
～脳神経科学研究の現在～

「私はどうしてこのように感じるのか?」「私はどうしてこのように考えるのか?」
そして「私はどうして成長できるのか?」

皆さんは不思議に思ったことはありませんか?

近年の脳神経科学研究により、この人類の身近かつ根源的な問いが解かれつつあります。

講演では、感覚神経や、脳の働き方や高次脳機能の研究者が最新の知見を紹介します。

2025年
7月5日(土)

会場

京都大学百周年時計台記念館
百周年記念ホール

14:00～16:10 (開場 13:30)

14:05～15:05

「力を感じ取るしくみ」が支える体の機能

野々村 恵子

(医生物学研究所 教授)



15:10～16:10

脳の設計図と変化する脳

今吉 格

(生命科学研究科 教授、医生物学研究所 教授)



ウイルス・幹細胞システム医生物学共同研究拠点
京都大学医生物学研究所

第19回 公開講演会

感じる私・考える私・変化する私
～脳神経科学研究の現在～

2025年
7月5日(土)

14:00～16:10 (開場 13:30)

会場

京都大学百周年時計台記念館
百周年記念ホール

プログラム 司会 伊藤 能永 (医生物学研究所 教授)

14:00～14:05

開会挨拶 河本 宏 (医生物学研究所長)

14:05～15:05

「力を感じ取るしくみ」が支える体の機能

野々村 恵子 (医生物学研究所 教授)

あなたの手がリンゴに触れた時、あなたはその表面がツルツルしていることが判りますね。このような「触覚」を実現するタンパク質であるピエゾ(PIEZO)チャンネルが、呼吸や尿意など、体の様々な機能や疾患に関わることが分かってきました。これらの最新研究を紹介します。



15:10～16:10

脳の設計図と変化する脳

今吉 格 (生命科学研究科 教授、医生物学研究所 教授)

我々の脳神経系はどのような原理によって作られて機能を発揮するのか、そのメカニズムについて紹介したい。また、最近の研究により、大人になっても脳の神経回路は変化し続けることもわかってきた。脳の発生と変化が、どのように人の個性や脳の病気と関係するのかについても紹介したい。



事前申込制・申込先着順

参加ご希望の方は、下記URLもしくは右記QRコードからお申し込みください。
<https://forms.gle/CVCZxfDTCXYa6YCZA>

2025年7月3日(木) 申込締切
定員500名(先着順)



※参加者の皆様の情報を適切に保護し、本講演会の開催・受付目的以外には使用いたしません。

表面のデザインについて：脳神経およびメカノセンサータンパク質PIEZOのイメージを図案化したものです。